

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成18年  
7月号

毎月23日発行  
通巻431号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成18年7月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷  
★定価 1部 250円  
★年間購読料 3,000円(送料共)  
★振替口座 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



トキワススキ 奈良市 川端一弘さん撮影(文・7頁)

昭和45年4月15日 「箭負50年記念祭」法話より

## 神の心、人の心の結び合い

法主 矢追 日聖(満59歳)

### 人格霊の住まい

四月八日、須佐緒祭すさのおまつりの日に今井富蔵(大倭安宿苑)苑長から箭負祭やまひまつりについて話がありましたけれども、これは大倭のいき方の根本的な問題になるんで、私から直接説明させてほしいと思うんです。箭負祭は大倭神宮に関する問題になるんです。神社や神宮という場所は、俗に神さんという言葉を使いますが、俗にいわゆる人格霊、固有霊が住まいしている所です。山とか土地の神気を醸す雰囲気がある場所に霊界人は集まってひとつの社会を作っているんです。

大倭神宮の一角を中心とした場所は、神武紀元以前から歴代の人格霊の寄り集まっている神域になっていて、土地と霊体とは切っても切れない深い関係です。肉体のない人々が住まいしている場所と、我々肉体を持つている人間がお互いに協力し合い強い結び付きがない限り、霊界人も幸せになれないし、また現界人もうまくいかないという関連性を持っているんです。

箭負祭五十年祭という意味は『すさのお』(昭和45年3月23日 第42号)にも書きましたけれども、大倭神宮のある場所には推古天皇の時に初めてお社のある神社が出来たんです。大和ではそういう所を「森」とか「杜さん」と言うけれども、「鶏の森」という杜さんが昔のままです。千年以上の大きな古木も沢山ありました。

## 矢追家の宿命

ところが、明治四年になった時に、富雄川の橋の橋梁にという事で、一番身近な所の木を伐つてそれを使うというお上の御用があつたんです。

その時、矢追家の事情が事情であつた為、「こは神さんだから恐ろしい」と言つても、明治政府には通用しない。取られてしまうなら、いっその事、新宅を造る時期になつていいるから、その木を伐つて造つたらいいと考えたんです。

けれども神さんの杜さんを伐るんだからと、ここに初めて斧を入れる時、大和中のこれという霊能者とか霊格者に来てもらつて、一週間の大祈禱をしてもらつたらしい。

その中で一番の大木、古い松の木だけは、大倭神宮の上にある極楽寺（現在は聖徳寺）の観音さんのお堂に使つてもらつた。小さいですが、その木一本で全部建つていいるらしいんです。

そんなわけで一番最初に杜さんを伐り始めたのが明治四年で、六年に新宅が出来たんです。ところが住まい出来なかつた。まあ可笑しな話ですけど、でも、そこで住まいすると、夜には障子にいろんな人影が映つたり、布団に入つて寝ようとすると枕がパーツと飛んでしまつたりね。それはちよつと前代未聞の恐ろしい事件が随分あつた。

ようやく神さんの怒りが鎮まつたというのか、時期が来たというのか、十年経つてからそこで住まいして、初めて出来たのが私の父です。父には兄さんと、姉さんも二人いますが、元の家で生まれていて新宅ではないんです。

父は商売が好きだつたから十四、五歳から大阪に出て行くんです。ところが兄さん——私から見ると伯父さんですけど——は、戦争に行つて怪我し

て、それが動機で死んでしまったので、また父を連れて帰つて跡取りをさせなければならなくなつた。そういう事が『紫陽花邑』（フエイヌ出版）

『ながそねの息吹』所収に書いてあります。神罰が当たるとか、いろんな不可解な事件があつて、神さんの屋敷で住まいして嫌われるんなら神さんに返したらいいと、父は大正八年十一月にお金になる田畑は全て売つて、家族と共に大阪へ出て行つたんです。私が九つの時です。

ところが、大正八年の大阪は火葬場が焼ききれないくらい流行性感冒で死んだ年なんです。行くなりその病気に罹つて二人の子供（隆治、龍子）は死んでしまふ。母（生母さん）も骨と皮になつて、抱いたらさげられるぐらいに目方が軽くなつて、生きるか死ぬかわからないような病気になるていいるんですよ。

そういう事で、いよいよ神さんの力もわかつたし、人間が幾ら抵抗しても宿命というものがあれば、この大倭のお宮さんをお守りし信仰しなければいかんと、父が自覚したのが大正九年です。そして、今日までの一切の罪というものを懺悔する意味において、初めて一家揃つて神仕えするといふ記念の日が大正九年四月十五日です。

明治四年に森を切り開いてから人間の方が兜を脱ぐまで、大正九年で丁度五十年、そして大正九年から丁度今年で満五十年ですね。だから結局、元の神域、「鶏の森」を荒らしてから百年になります。こんな事、私は勘定していませんけれど、神さんの方でしておられるんですよ。

それには、その神域を矢追の先祖が破壊したんだから、元の昔のように復帰し、神様の威徳というものを表さなければいけない。またお仕えしなければいけないという運命的なものが矢追家には神さんの方から定められているんですよ。

## 神も人と拝み合う

ところが、その建物や土地とか、神域というのは矢追家がお仕えしお守りし信仰して来ているけれど、そこにいる神さんそのものは、矢追一軒の神さんでもなし、そこに何百万人信者が出来たとしても信者が独占する神さんでもないんです。

これは全世界の人類と共にある神さんですから、大倭の神さんに対して信仰している人も増えて来ているし、有形無形を問わず、何かのおかげを被つている事を自覚している人もたくさんいるはずなんです。

そういう時に、昔のように矢追が責任を持つて祭典行事をやつて、他の人はお客さんみたいな顔をしてお参りに来るといふ事では油に水を回しているような状態になるんですよ。

それで、信仰する者と神さんという関係において、お徳をもらつたとか、神さんの威徳を感じている人が五十年祭を節として、その祭典に対して、「心ある者は心だけの事をしてもらつても構いません」といふ事を皆に知らしめてくれと、今井苑長を通じて言つてもらつた訳なんです。

霊界の方、神さんの側から言つて祭典行事を派手に大きくしたからといつて、決して喜ぶものとは違ひます。我々は「神さん神さん」と上に奉つて拝んでいるけれども、そこにどんな偉い神さんがいても、その神さんと人間が交流出来ない場合、霊界では苦しんでいるんですよ。

五十年祭となつた時に、一人でも多く出て来て、祭典して拝むという形になるけれども、霊界の方も皆その日には正式に正座について現界人に対して拝んでいます。どちらも拝み合いによって両方幸せになるんですよ。

仮にお祭りする場合、私一人いても霊界人は喜んでいきます。これはもう具体的な話ですけど、お供え物は水ひとつでも構いません。五十年祭であろうが百年祭であろうが、霊界人は数多く供えたから喜ぶものではありません。結局、霊界人と現界人の心と心の結び付きという事が一番大事なことなんです。

## 心を供える

この前、今井苑長が話したのを誤解して、「今度の祭典は費用が要るから寄付してくれと苑長から声があつた」と、信者さんの中には流れているらしい。これはもつての外ですよ。もし付き合ひのような気持ちで出すならひとつも要りません。そんな気持ちでは神さんの為と想つてしてくる行為が、返つて霊界人には通じない。徳を落とす事になります。

だから、祭典に幾ら要るから相談し合つて費用を持つとうとしてもらうと、これは意思が通りません。それから、「あの人これだけ出したから、これだけ出さないと格好悪い」とか自分の面子を考へてすると、世間の神さんはどうか知りませんが、それでも、大倭にいる霊界人には絶対に通じません。それを私はくれぐれも言っておきたい。

それよりも内緒でこそつと、「私はこれ気持ちだけ」と仮に黙つて一円置いて、それは皆寄せた一千万円以上の喜びが霊界にはあります。それは高野山の場合の「貧者の一灯」と同じ事です。

いつも言つてますけれども、祭典の時に包んで三宝に供える心があるならば、その前に持つて来てもらつたら、それによつてお供え物の数を変えるときか、こちらの方でつもりする訳です。例えば一台にしておこうというところを、「この心を神

さんに通じさせなければいけない」と二台、あるいは三台にしようという形になるんです。

## 人間同士の計画

例えば会館や食堂とか、人間が人間に対して使うものを建てる場合、神さんとは無関係です。ここに来る人の為にするのであれば、計画もし、これなら何万円要るからどういう方法でお金を寄せようとか、そういう意味の寄付は構わないんです。ここに集まつてくる人間同士がそれを使うんですからよろしい訳です。

神さんに対しての仕事と、人間同士がする仕事との区別をはつきりしてほしいと思うんですね。

大倭へおいでになつていらっしゃる方は神さんの心を知ると同時に、人間として神意に添うようないき方をしてほしいと思うんです。

## 祭典後の座談より

法主 祭典に関して、お金が幾ら要るとは言つていません。百円でも出来るし、お金がなくても出来るんですから。

それは費用を皆が持つて来てくれたら、こちらは得します。肩が軽くなるし、楽ですよ。けれどそれでは神さんに通じないから、私はこちらが損する話ばかり言っています。(笑)

世間の宗教団体だったら、「寄付したら功德になる」とか、上手にお金を持つて来させますけど、大倭の場合は逆になります。神さんに対して自分の心だけを持つて行くというけじめをよく理解してほしいと思うんです。そういう意味をよく噛み分けて、又その点を皆に理解するようにやつぱり知らしてあげないとね。

大倭は日本民族の大先祖の御霊がある場所です。それが今は伊勢神宮という事になつてしまつて、同じ性格ですが、こんな事を言つたら悪いけれども、霊界から見た場合に伊勢の方がずっと格が落ちています。

神武天皇が九州から移動した時に、政治の中心が樞原の南に遷つて、それ以前の大和の一番根本であつた所が寂れた訳です。けれども、霊界は関係ありません。人間が向こうへ行つても霊界は変わりないですからね。大倭というのは古代日本、大和の根源をなす霊のある場所なんです。

だから私個人の大先祖さんでもないし、日本人皆の大先祖のお祭りだという気持ちになつてほしいと思います。

けれども、小さいながらもその神域というものをお守りする、まあ番犬みたいなものですね。それで今日まで来ているんです。

ところが、矢追五十年の歴史は現罰、現罰です。それは生母さんに聞いてもらえばわかりますが、そのくらい怖い所なんです。短い期間ですけれども、神意というものに対して嫌というくらい私は身に沁みて体験しているんです。

だから、もし心ない事、「あの人これだけしたから、私もこれだけ」と出して来たら、実際罰当たりです。絶対いけませんよ。

鈴月母さん それはそう思いますね。形だけでどうこう言う神さんだったら、今日まで我々は結構罰当つっています。

生御膳でお鯛上げるのも特別な日だけです。その間はスルメ一匹ずつしかあげてない。本当に神さんが形を言われるなら罰当たる。梅雨時だったからスルメでもカビ生えている時ありますもの。お神酒ひとつにしても神酒子にいっぱい入れた事はない。誰も飲まないから、少しずつ匂いあげる

ようなものです。(笑)

**法主** それが日本一の神さんをお祭りする形ですから、五十年祭だからと皆お金を集めて立派な事をして、それが不浄だったら喜ぶ事ないです。

人間の側から言えば、矢追が現罰でうんざりして五十年だから、その時の祭典は、半分は神さん中心で、半分は人間中心にも考えないといけないと思うんです。五十年という節を人間社会でも、ちよつと目で見えるような形は必要なんです。

大倭の祭典ではカビ生えたスルメを置いていても、霊界には鯛がきちんと供えてありますよ。出雲から来るのが霊界では決まっています。きつちりしていますよ。それから三輪からは丸太棒に乗せて猪、そして鶏とか鹿です。海産物は熊野や伊勢から来ます。

大倭は総本家だから、分家から持つて来なくてはね。人間と同じ事で面白いですよ。

**柴地則之** 分家が、例えば鯛なら鯛を供えると役割が決まっていますか？

**法主** 決まっています。大体その特産物ですね。焼物は出雲から来ます。これは稲田姫の關係が知らんけどね。

それで仮に、三輪とか出雲でお祭りがある時、大倭から持つて行くのはお米ですね。大倭はお米です。だからここのお祭りの時にきちんとお米を供えてあるけれども、地方の神社からはお米は絶対に来ません。他所のお祭りの時、こちらから向こうへ持つて行く。そんな付き合いが神さんの世界でもあるんです。

だから形みたいなのは供えなくても霊界にはあると言われるからね。ここで十台供えても、それ以上の物が霊界にはきちんと供えてあるんです。そんな意味ですから、物を仰山供えたら喜ばれると思っても、心がなかつたらいけない。

神さんの方も理解しているんですから、こちらもそれに添ったいき方をしないとダメですね。

その点を皆に理解してもらったら、私はものすごく気が楽になるんです。皆が心ない事したら、自分の意思がなくてもこちらの責任者ですから、私がギョツといかれます。まあ自分が可愛いから言っているんです。

**鈴月** それでもいつも生母さんは「神宮は怖い所」とおっしゃるけれど、本当に怖い所だと思います。法主さんがおられるから、私達も玉垣の中に入れますけれど、自分勝手にだつたら入れません。

**法主** それは今みたいな穏やかな所を見ていたらどことが怖いと思うでしょうけど、昔はほんまに恐かった。私はその中で生まれ育っているんですからね。私はあまり罰当たらないけど、親が当てられているのを目で見て大きくなつてきているんです。それは怖い所です。

同じ家を建てるのでも不浄なもの持つて来たらすぐに焼いてしまうと、そのくらいの事を霊界から嚇されるんです。やっぱり形の物にとらわれて、いいものが出来たら神さんの値打ちが出たような気になる。そこが具合悪い。大倭はそれが通用しないんです。

**鈴月** 生母さんも大阪で道場を持つておられた時分、「おかげをもちつたから、御嶽坊さん(大倭霊地を守護している瑞嶽大加美)の後援会をしよう」と皆が言った時、「神さんが誰に応援してもらわないかん、馬鹿なこと言うな」と、御嶽坊さんに怒られたらしい。

**森下** 神さんのことはよくわかりましたが、大倭神宮の社務所となつたら、又、別ですか？

**法主** 神域内にするものですから、同じ係累です。

**柴地** 神さんの部類に入りますか？

**法主** 例えは、拝殿を建てる場合でも「こんな事

をしますよ」と皆に知らすことが必要なんです。後は持つて来ても持つて来なくてもかまわない。

今日の祭典と理屈は一緒です。自分自身のひとつのおかげに対して心の表れとして持つて来ることは、自分自身の徳を積む事だけれども、心なかつたらいらないと霊界人は言います。

仮に拝殿が出来る、その建物の守護をする役目を受けた霊界人が守ります。結局、霊界人と現界人が交流する場所ですから、霊界から見ても必要になつてくるんです。

それから、ここは霊地であるという事を現界人にバツと見て知らそうと思うと、鳥居や玉垣があればわかる訳です。霊的感応が皆あれば何もなくてもわかるけれど、神域を侵したりすると、霊界人が怒り人間が不幸になるからね。

だから神域の中でする種類の建物になると、同じ意味になる。そこが又、他所とは違うんです。そのかわり誰が幾ら寄付したと大倭の新聞に発表しないし、誰が多くて誰が少ないという事わからないはず。自分で徳を積んでいるんだから、こちらからお礼も言わないし、言う必要もないね。

世間ではお金を扱う者がちよろまかすから、後で決算して報告するんですよ。

**柴地** こういう事が一番競い合う事で、つまらんです。変な気が流れるなら、ない方がよろしいですわ。

**法主** お参りして何かの意味でおかげをもらおうと思うと、逆に罰当たりです。気の毒です。本当の事を知らないとかわいそうですよ。大倭はこれですつといてくれないと。

これ録音しているから、私が死んで何かあったら、かけてくれたらええねん。(笑)

(文責 編集部)

## 風ぐるま

## 宗教雑感

大阪府茨木市

杉

浩史(63歳)

◆私は子育てに懸命であった三〇歳代半ばくらいから、四〇歳代後半くらいまでの一〇年余りの間、地域のボーイスカウト活動のお世話役をしていたことがある。長男をボーイスカウト、三歳下の長女をガールスカウトにそれぞれ参加させ、その見返りというワケでもないが、親にリーダー役のお鉢が廻ってくる(役務には結構、軽重があり、私は最も重いものの一つである隊長を仰せ付かっていた)……という仕組みだったためだ。生来、世話好きで仕切り屋的な要素のある私のこと、時間的には厳しいものがあつたが、概して言えば活動の中心は、それほど苦になるものでもなく、むしろ自ら楽しんでいたような面が大きかった。

ただ一点、指導する上でどうしても困つたことの一つが、実は「宗教」のことであつた。

イギリスで生まれ、主にキリスト教文化圏で大きく発展したボーイスカウトでの約束ごとの最も重要なことの一つとして(それがどんな教えを説くモノであれ一向に構わないのであるが)、明確なる自己の信仰を持つこと、及び、その教化が、活動の大前提として組み込まれていたのである。

ところがこの日本では無宗教若しくは、宗教的に無関心のご家庭は、極めて多数にのぼり、親の方に特段の宗教心がなく、信仰を持っていないご家庭の子供さんには、ホトホト弱つてしまうのだ。神様 仏様のお話をリーダーであるこの私が、有りつただけの能力を動員して一所懸命に説いても、それは単にお話として理解をするだけで、人の話を理解する事と内容に「同意」する事とは、全く違う。結果、「暖簾に腕押し」「糠に釘」であつ

たのは言うまでもない。私は子供達を全く説得できなかつたし、その部分では完全にリーダー失格であつた。

私は外国の文化に接した経験をさほど多くは持たないので、よくは判らないのだが、キリスト教やイスラム教文化圏では、人々の日常にある宗教というもののプレゼンスが、日本に於けるそれとは、全く違つていることくらいは、容易に想像がつく。そうした地域では自己の信仰を持たない……なんてことは、殆んど考えられないらしい。

ところがこの日本という所だけは、宗教とその信仰が生きていく上での前提ではない、この地球上でも極めて稀有な地域の一つなのだ。

◆よく言われたことだが、外国に出かけた時、「あなたの宗教は何か」と問われて、「無宗教」とか「特段の信仰はない」などと答えてはいけない……という。とりわけ欧米ではそうである。その答えは殆んど自ら人間であることを否定するに等しい……ともいう。だからと言つて適当に、「仏教」とか「神道」とか答えてしまった場合、次に「それはどんな教えか」と二の矢、三の矢の質問攻めで、たちまち立ち往生をし兼ねない。

もう随分と旧聞になるが、ロッキード事件の時、時の宰相 田中角栄(だつたか、全日空の最高責任者の若狭得治氏だったか?)と固い固い「男の約束」をした筈の、ロッキード社 副会長のコーチャン氏は、いとも簡単にその約束を反故にして、ペラペラ内実を証言してしまつた。三〇年ほど前のこと、また青二才であつたこの私が、随分驚いたことを鮮明に覚えていて。よくよく聴いてみれば、コーチャン氏にすれば、聖書に自らの手をかざして誓つた「神との約束」に比べれば、人間同士の約束なんて破つたところを取るに足らない!!と言つたところであつたらしい。

ことほど左様に、欧米の人々の間での宗教は、心の中に、ちゃんと根をおろしているのに比べ、我が日本社会では何故こも「宗教」の肩身が狭いのであろう……? ◆宗教というものが日常生活に根付いていないことの顕れの一つとして、不文律の崩壊と言うことがある。つまり、法律が……とか、セキュリティがどうの……と言つた面倒な理屈以前の不文律として、「してはいけないこと」として、普通に心に刻むのは人としての心の出発点である。「神様が見ておられる」という意識が心の片隅にでも、あるのと無いのとでは、随分違つて来るし、宗教が持つ価値観及び、倫理観というものは人々の心の基になることは、先ず間違いない。

そうしたことの欠落の結果が、小児虐待とか、乳幼児の殺害など、耐え難い殺伐たる世相の招来と大いに関係しているのではないだろうか。少し乱暴な推論になるかも知れないが、宗教的風景の少ない日常は、逆に言うと、ちよつとした出逢いで、コロッと宗教にやられてしまふということが、有りはしないだろうか。「オウム」は、そうした中でも特筆に値するものだとは思ふが、妙な壺を法外な値で買わされたり、「霊界通信」なんて、それが出来る……というだけでは、何てこともないように、私は思うのだが、それを金儲けのネタにする手合いは後を絶たない。果てはオカルト集団のようなものまで……。

私から見れば、この種のものにコロリとやられるのは、宗教に練れていないという土壌と関連するような気がしてならないのだ。(06年2月)



# 寸 莎

## 第70回

### 杉 本 康 一 さん

やっぱりごんですよ！

康一さんはうどんが大好きだ。それも讃岐うどん。時々「ただうまい讃岐うどんを食べる」という目的で香川県まで車を走らせる。うどん屋巡りというやつである。どうしてうどんが好きなのか、と質問するのを忘れたのだが、好きな物に理由なんてないだろうという事で、まずは康一さんの人生に耳を傾けたい。

康一さんは現在三十一歳、大倭印刷株式会社で編集の仕事をしている。入社して満九年になる。「この仕事で大事な事は何ですか」の問いには、「センスだと思います」と返ってきた。美術館などには出来るだけ行くようにしているという。「いろんな物を見て、いろんな色や形がある事を知って、それでいてとらわれないように。バランス感覚を大事にしたい。数多く見て少しずつ観る



目を作っていきたい」と言う。

康一さんは、奈良の尼ヶ辻で六代続の家に生まれた。周りは田畑に古墳（垂仁天皇陵）、そしてお寺という風景である。子供の頃は、外でいつも三つ下の妹 知世さんと遊んでいた。夕日が生駒山に暮れかかると、唐招提寺の鐘が五時に鳴ると、それが帰る時を知らせる合図となった。

小さい時から風邪をひいてはよく扁桃腺を腫らしたが、体を動かすのは好きで膝小僧にはいつもかさぶたを付けていた。小学生の時には軟式野球を、中学生では父親博康さんの影響で軟式のテニス部に入り、三年生までびっちり運動した。お蔭で今では風邪もひかなくなった。

中学の一年も終わる頃、テニス部に熱血先生がやって来た。康一さんはダブルスの前衛だ。夏休みも返上して練習する事になった。その甲斐もあって奈良市でベスト8に入り、

二年連続で県大会に出場する事が出来た。力を出し切った思い出である。

高校の時の話はまだ語りたくないようだった。思春期には誰しも身に覚えが有る事かも知れないが、人間関係にうまくいった時期だった。この頃の傷は、後に多くの人と出会い話しをした事、そして時間の流れがゆっくりとほぐしていった。

高校を卒業し、大阪にあるコンピュータの専門学校に入学。

この頃、昔から近所で知り合いだったおばさんとひよんな事から再会した。この再会が切っ掛けで現在でも彼女にはお世話になっている。今では「第二の母」のように感じる。大倭印刷に就職出来たのも、彼女と紫陽花邑の矢追房子さんが友人同士であった縁で紹介して頂いた。

彼女の経営しているお店には今もちよくちよくお手伝いに行く。「虚栄心は持ったらあかんよ、それより自尊心を持ちなさい」と彼女は言う。「嘘という字は虚栄の虚に口を付けたもの。嘘はいずればれる。自分は何が出来て何が出来ないのかわかる事が大切なんだ。分からない事や出来ない事は素直にそう言うて次に勉強すればいい」と康一さんは思えてきた。それから彼女は「人はよくすみませんという言葉を使い慣れてしまっているけど、ありがとうの方

がいいわね。自分にも相手にもいい印象を与えられる言葉。あまりマイナスと取れる言葉は使わない方がいいんじゃないかと思うけど」と言った。人に対してはつきりものを言う方であるが、そこには愛情が感じられる。だから康一さんも「言われる内が華」だと思えているのだ。

二年間の専門学校を卒業した康一さんは、公団地のメンテナンスの仕事に付いた。初めての就職経験で「自分がない。しっかりせなあかん」と思ったと言う。しかしこの仕事は自分にとって何か違うなと思い一年半で退職した。

いつの頃からか印刷関係の仕事を探していた。本を読むのが好きなのだ。小さい頃から母親の華子さんが絵本を読んでくれ「まんが日本の歴史」を一冊ずつ与えてくれていたお蔭で歴史も随分と好きになった。レイアウトデザインをやってみたかった。そして、縁あって大倭印刷に入社。いろんな人達が入り込んでいる事と、アットホームな所が印象的だ。仕事に身に付くのに三年かかった。

康一さんは、今年から西大寺で一人暮らしをしている。現在の関心事は、登山 自転車 習字 読書。京極夏彦の愛読者である。好きな歴史上の人物は、雪舟。「人間とその創造性に興味がある」（聞き手 李 章根）

表紙写真によせて

## 奈良県のトキワススキ

奈良市 川端 一弘

トキワススキを撮影した場所は大和郡山市若槻町の菩提仙川堤防で、昨年7月に撮影したものです。写真を見てお気づきになられたと思います。このススキは秋にふつうにみられるススキに比べ花（花序）が大きいのが特徴です。また開花する時期も早く、ときにはススキと間違われ「もう秋の気配」と新聞で紹介されたこともあるそうです。冬にも葉が枯れないのでトキワススキの名前があります。

日本のススキの仲間にはこのトキワススキを含めて7種類あります。そのうちでススキによく似て間違われるものがこのトキワススキとオギです（ヨシの仲間についてはまたの機会に）。

オギは水辺などに生育し、横に長い根茎をだします。ススキのように株をつくらず大きな群落になっていることが多く、大俵の近くでは大淵池や平城宮跡の池辺にも生えており、身近にみられるものです。

それに対してトキワススキは奈良県では確認された場所がまだ少なく、容易にみられないものようです。北葛城郡広陵町の葛城川堤防でも発見しましたが、いずれも車を運転中に偶然にみつけたものです。葛城川ではたまたま信号で止まり、何気なく左前方をみてトキワススキの穂を発見しました。1週間後に写真を撮りに再度出かけてみれば河川敷の草刈りが始まっており、十数メートルの差で刈り取られた後でした。発見例が少ないのは主な生育地が堤防土手部であるために、花を

つけるころに刈り取られることが多いからでもあるようです。一度刈り取られるとその年は花をつけることはないようです。

近年は草刈りが機械でされ、比較的手軽に草刈りができるため頻繁に行われ、野草の姿を見る機会が少なくなりました。その反面に手入れをせず放置されている田畑も多く、こちらは大型の草類やササ類などが侵入して小さな植物が圧迫されて生えている種類が限られた処が多くなりました。このように人間の活動の変化は生物に大きな影響を与えております。

植物は動物の活動（動物や昆虫は草や木の葉、果実を食べる）に影響をうけて生育しており、それが自然の姿ですが、人間の経済活動の激変は自然とつて従前にはない影響を与えております。

日本においては弥生時代以降に農村、山村の発生・発展があり、現在ある農村や山村の自然は人間が作り出した自然です。

その自然が現在では科学の進歩による近代経済の発展により大きく変化してきております。農村や山村はつい40年前の農村、山村とは全く違った状況にあり、自然も大きく変化しております。前述した機械による頻繁な草刈りも一例ですが、大規模な圃場整備による水田の整備は水路や土手に生育する植物に大打撃を与えました。水路はコンクリートで固められ、湿田は乾田と化して機械の導入には好都合となりました。そのために激減した植物や絶滅したものもたくさんあります。

トキワススキの生育地が河川の堤防などに狭められている現状で、開花した穂のまま刈り取られるということは何を意味するのでしょうか。それはすなわち子孫を広い地域に残せないということですね。分株により株が大きくなることはあっても種子による子孫を残せないのです。種子を風により

広くばらまくなることができないことは、河川改修など堤防で工事がはじまるとトキワススキが絶滅するということになりました。現在トキワススキは絶滅危惧種に指定されておりませんが、かつては広く見られた植物がこのような事例で絶滅危惧種に指定されている例が多くみられます。

「もう秋の気配」とは（立秋のころにもみられ、暦のうえで正解かも）ほほえましい誤解でありますが、そうした自然にふれる機会が少なくなってきた現在の現状です。

私たちが自然に触れる機会が少なくなってきたことは、私たち自身の日常生活が自然に向き合うことが皆無になったからでしょう。花が咲きその場かぎりの観賞で自然にふれあつたと錯覚しているのが現在の姿です。農村も山村も自然とは無縁の生活。経済になりつつあるように感じられるこのごろです。

## 「だまことだま

▼東京都日野市 草場 清則

『おおやまと』へ送付ありがとうございました。法主さんの肉声が、久々に聞けた気がしております。昔、理解できなかったことが、個人史の肉付けのなかで、また異なる広がりや実感をもって響いてきます。種を受け継ぐもの一人になる自信はありませんが、一時代を共有できたものとして、次に紡ぐ生き方は、していきたいものだと思います。

▼東京都昭島市 浅井 桂

先が見えて来ない日々の連続に息苦しさをこらえられなくなると、『おおやまと』を開きます。答えが見つかるとはありますが、あじさいに私も一緒につながっていられる気がして力をいただいております。

# あじさい日誌

6月11日 観会。大畑多美子さん（大阪市）が初参加。  
午後5時30分より教務本庁で勉強会が開かれました。  
夜、大倭会館で大倭町自治会役員会が開かれました。

6月15日 大倭神宮月次祭。  
6月17日 夜、交流の家でF I W C定例委員会。

6月18日 第二九〇回大倭会文化行事。  
東大阪市にある府立図書館ライティホールで、『地面の底がぬけたんです』があるハン



セン病女性の不屈の生涯の、ひとり芝居を観ました。チケット販売数は40枚（内、小人3）。随時入場、自由解散のため、写真は青山日元さんの記念撮影を残っていた人達が困んだもの。日元さんはこの3日後（21日、夏至の日）が誕生日、満92歳を迎えられました。

6月22、23日 あじさいは咲きました。第3回あじさい祭は雨天のため中止。（写真）

6月23日 大倭本宮月次祭。  
6月28日 齋藤正宏さんが紫陽花邑に住むことになりました。  
6月29日 交流の家に、イタリア人のセルジオ・ギラルデッリさん（48歳）が3カ月ほど滞在されます。日本語は堪能、役の行者が研究テーマとか。



6月30日 午前10時30分から奈良パークホテルで「邑交流会」。

6月30日 午前10時30分から奈良パークホテルで「邑交流会」。

6月30日 午前10時30分から奈良パークホテルで「邑交流会」。

6月30日 午前10時30分から奈良パークホテルで「邑交流会」。

6月29日 三笠温泉ホテルで、青垣園さんと施設交流会。ゲームやカラオケも、いつもと一味違う楽しさでした。  
（長曾根寮）  
6月16日 デイサービスで、ファミリーバンド「トライ」2名の方のミニコンサート。曲に合わせて皆も一緒に歌いました。  
7月1日 施設創立40周年記念日でした。  
（八重垣園）  
6月28日 俳句クラブ。「桑の實のこぼれし路地の地蔵尊」「初鰯昼餉の珍珠たきかな」「万緑や友より旅の誘いあり」

6月29日 三笠温泉ホテルで、青垣園さんと施設交流会。ゲームやカラオケも、いつもと一味違う楽しさでした。  
（長曾根寮）  
6月16日 デイサービスで、ファミリーバンド「トライ」2名の方のミニコンサート。曲に合わせて皆も一緒に歌いました。  
7月1日 施設創立40周年記念日でした。  
（八重垣園）  
6月28日 俳句クラブ。「桑の實のこぼれし路地の地蔵尊」「初鰯昼餉の珍珠たきかな」「万緑や友より旅の誘いあり」

6月29日 三笠温泉ホテルで、青垣園さんと施設交流会。ゲームやカラオケも、いつもと一味違う楽しさでした。  
（長曾根寮）  
6月16日 デイサービスで、ファミリーバンド「トライ」2名の方のミニコンサート。曲に合わせて皆も一緒に歌いました。  
7月1日 施設創立40周年記念日でした。  
（八重垣園）  
6月28日 俳句クラブ。「桑の實のこぼれし路地の地蔵尊」「初鰯昼餉の珍珠たきかな」「万緑や友より旅の誘いあり」

6月29日 三笠温泉ホテルで、青垣園さんと施設交流会。ゲームやカラオケも、いつもと一味違う楽しさでした。  
（長曾根寮）  
6月16日 デイサービスで、ファミリーバンド「トライ」2名の方のミニコンサート。曲に合わせて皆も一緒に歌いました。  
7月1日 施設創立40周年記念日でした。  
（八重垣園）  
6月28日 俳句クラブ。「桑の實のこぼれし路地の地蔵尊」「初鰯昼餉の珍珠たきかな」「万緑や友より旅の誘いあり」

# あんない

\* 月次祭（大倭神宮）  
8月6日（日） 午後2時より大倭神宮にて。  
\* 東光大祭及び祖霊祭  
8月8日（火） 旧暦7月15日です。  
午後1時20分より東方の碑前で拝礼。2時より大本宮拝殿で東光大祭、及び奥津斎庭で祖霊祭を行います。

尚、先月号で祭典後の直会の会費をご案内したところ「ささやかですが大倭会の方で用意させて頂きます」とのこと、どんな様もお気軽にご参加下さい。  
\* 大倭会主催四五三回観会  
8月13日（日） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。  
\* 大倭教立教開宣祭及び大倭神宮月次祭  
8月15日（火） 午後2時より大倭神宮にて。

\* 月次祭（大本宮）  
8月23日（水） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。  
\* 大倭会主催弥栄おどり  
8月26日（土） 午後7時30分より。上をご覧下さい。

法話テープを開かれる方の妨げにならないために、法話テープの記事にするときは「文責編集部」と明記しておくようにしたいと思えます。（杉本順一）

法話テープを開かれる方の妨げにならないために、法話テープの記事にするときは「文責編集部」と明記しておくようにしたいと思えます。（杉本順一）

## 大倭会主催 弥栄おどり

平成18年8月26日（土曜日）  
午後7時30分より大倭西斎庭

子供たちには夏休み最後の思い出として、大人たちは日頃の疲れを発散させて思いっきり踊って、楽しみませんか。

大倭会会長 中西 正和

**求む!** 準備・後片付け等のお手伝いを心ていただけるスタッフ

当日お手伝いいただける方は、大倭西斎庭へ午前9時にお集まり下さい。

お問い合わせは ↓  
大倭印刷機 青山法義まで  
電話 0742-44-0011

6月30日 午前10時30分から奈良パークホテルで「邑交流会」。

6月18日 家族交流会、食事会や景品争奪戦ゲーム、カラオケで和やかに過ごしました。

### 大倭安宿苑では

（菅原園）

6月18日 家族交流会、食事会や景品争奪戦ゲーム、カラオケで和やかに過ごしました。

## 編集後記

言葉というものは面白いもので、聞く人の耳から心に入ればその人なりの色が付いているらしい。先日観会で「たみみのうえのすいれん」と言われた言葉を「畳の上の睡蓮」と聞いて「？」となった人が何人かおられたらしい。「畳の上の水練」と言いたかったとのこと。「すいれん」||「水練」……この関係はもう死語に近いのか？ 四十年前の法話テープを聞いて本紙の記事にするとき、こういった誤りは起こしやすいと思う。音としての法話テープを残し、文字にして記事を残す作業をする当編集部としては、将来